

オレリエン・ハンターの スイスへの誘い

学校について



私は最近、学校訪問が多いです。

授業の内容を担当の先生と相談して、学年に合わせますが、概ねに子供と遊んだり、スイスのことを紹介したり、簡単な英会話を教えたりします。来町したときに先生として未経験だった私の授業はどうかと思っていましたが、先生から毎回とても楽しみにしていると聞いて、ちょっと安心しました。確かに、授業を始める前に迎えて来てくれる子がニコニコしていますし、授業を始めるときに目を輝かせている子がいるのに気づいて、私も学校を訪問するのが楽しくなってきました。

鏡野町の小学校を回っているうちに、日本とスイスの学校の違うところと似ているところがあることに気づき、今回は私の小学校時代と照らしながら、日本とスイスの学校について書きたいと思います。

教室の雰囲気

スイスの教室には出入り口は一つしかありませんから、日本の教室に入りが二つあることにまず驚きました。一見大した違いに思えませんが、なぜ二つもあるのかとつい思ってしまいました。やはり先生の地位、ちなみに上座と下座とでも関係があるのかな… あーい、地震の多い日本ですから、避難するときに二つの出口があったほうがいいと思われ、そうだったのかなと… まだ謎ですから、その訳を知っている人がいれば、ぜひ教えてください。

入り口の話はさておいて、教室に入ったら、雰囲気はだいたい似ています。壁に生徒の絵や作品が飾ってあって（ただしスイスでは習字が飾ってありませんね）、机が黒板に向けて並んであって、先生の机が角にあります。私は小学生だったときに、学年の始まりにグループを決めて、机を寄せていたのですが、最近それはなくなったようです。

生徒のこと

日本といえば、学生服、とくにセーラー服のイメージは強いですね。しかし、制服のない小学校があることを知りました。制服はなくても、皆ランドセルを使っていることは驚きでした。調べたところで、文部省からの指示はありませんが、各学校が指示を出すようです。皆さんにとっても、小学生といえばランドセルを背負っている子が浮かんでくると思いますが、スイスの小学生のカバンはばらばらです。毎年新しいカバンを買ってもらう人もいたほどで、学年の始まりに新しいカバンを自慢しあったり、よく盛り上がりたりしたものでした。

生徒の格好はあまり違っていませんが、教室にいる人数に驚きました。30人を超えるクラスは珍しくないですね。私は小学生だった頃、1クラスに25人が上限だったと思いますが、最近クラスの人数が増える傾向にあるようです。それは都市での話で、人数が少ない地方学校では、日本と同じように複式の学級もあるようです。

授業の雰囲気

日本では「礼で始まり、礼で終わる」ことが多い気がします。剣道、茶道、大相撲はともかくですが、学校の

授業もそうです。全員が起立して礼をするクラスがあれば、座ったままで挨拶をするクラスもあります。生徒の言うことにも多少バリエーションが見られますが、日直さんは「これから〇時間目の勉強を始めます」を言い、全員が「始めます」と答えて、さらに日直さんが「礼」と言い、全員が「よろしくお願いします」というパターンが多いです。スイスでは、そんなの全くありませんでした。過去形を使ったのは、今どうなっているかわからないからです… おそらく変わっていません。でも、考えてみれば、はしゃいだ休憩時間の後に授業するように気持ちを切り替える効果があってとてもいいと思います。残念ながら、切り替えていない子供もいますけどね…

小学生というのは一時間弱の話をじっとして聞けるような年頃ではないので、できるだけ授業に参加するように心がけています。それは生徒に質問することです。世界のどこの学校に行っても、質問に答えたい人が手をあげて、先生が当てるのを待ちますね。ですが、その上げ方が違うのです。日本では手を開いたままで上げる習慣ですが、スイスでは人差し指を伸ばして手を上げる習慣です。なぜそうなのかと聞かれたら困りますが、確かに違います。

私はできるだけ全員に当てるようにしていますが、当てられていないのに答えを叫ぶ子がいたり、隣の人当てた人の耳元に自分の答えたいことをささやいたりします。まあ、確かに私の授業は直接に学力に影響を与えませんが、普通の授業のときに同じようにしているのならば、やはり良くないと思います。もし私達が同じようにしていたら、先生にすごく怒られていました。先生は「学校は間違ってもいい場所です。どんどん間違ってください。間違わない人は進歩しません。ただし間違ったら、何で間違ったかを学んでください。それは勉強です。練習のときに代わりに答えを出す人は、試験のときにも答えを大きな声で出してごらん。そのとき、あなたは失格ですよ。カンニングと一緒にですよ。答えは自分で出さなければなりません。答えをささやいたり、明かしたりするのは、結局当てられた人のためになりません。答えが分かっても、邪魔をしてはいけません」と。先生の言っていたことは今でも役に立っています…

「小学校で失格とはどういうことでしょうか」と思った人はいるかもしれませんが、スイスの小学校では留年するのは有り得る話でした。留年するとは同級生と逸れてしまうわけだったので、先述した先生の話は皆真剣に受け入れていました。冗談ではありませんでした。

他に違うところがたくさんありますが、この辺にしておきます。

今回はなんと最終回です。

鏡野町で過ごした3年間の思い出を胸に、新しい旅に出る…

